

歌碑

文化

寺社

南阿蘇って

石橋

いいな

板碑

点在する文化財を訪ねて

(随時掲載)

神体

伝統

歴史

もしかして大発見か

新しい年を迎えて数日たったころ、あまりの天気の良い誘われて外へ出てみると、



ひょっとして奥の3体は？
(くまモンの高さは約50センチです)

そのあることは、数年前孫にせがまれて風揚げをしたときです。私自身が田んぼのあぜで息を切りながら一生懸命に走り、やっこの思いで風が揚がったため、糸巻きごと孫の手に握らせた途端、何を思ったのか孫はその

手をパツと放したため、私は再び逃げまくる風糸を目指して猛ダッシュ。寒さの激しい中での運動でやや酸欠状態のまま、目の前が真っ黒になりながらも追いかけたものの、所詮風に追いつくはずがありません。そうした私の行動をあざ笑うかのように、逃げた風は100%ほど先の電線にぐるぐる巻きついて止まっています。

そんな、にがい思い出を心の奥に秘めながら、中松にある西国阿蘇33ヶ所観音霊場の第28番札所正遍寺を訪ねてみました。正遍寺は、郡内屈指といわれる大きな楼門と本堂を誇るお寺の境内の一角にあり、十数年前に建て替えられた堂々とした祠となっています。頑丈な鍵がかけられた正面の分厚い格子戸越しに堂内を見てみると、十一面観音様がやはりいらっしやいました。何度も塗り直しがしてあるうえ、頭上にある頂上仏のい

くつかも欠落が見られるため、作られた年代はかなり古いようです。ところが、ところがですね、十一面観音様右隣の仏像に私はクギ付けになりました。3体の中央にいらっしやる背の高いのが薬師如来さんで、その両脇にはどう見ても日光菩薩と月光菩薩の二人ではないかと思えるのです。格子戸の窓をあちこち変えながら見てみましたが、やはり両菩薩に見えます。みなさん、以前勉強したこと思い出してください。通常ならば、両菩薩の下には時計と同じ12の全方向を守るという十二神将がいるはずで、もしもここにそれがいるとなれば、薬師如来仏像のワゴンセットという大発見になります。

幸いにもこの大きなお寺にはご住職や坊主さんがいらっしやるということで、何かご存じじゃないだろうかと思いついてみました。対応していただいた坊主さんの話では、なんでも先代のご住職が大事な仏像ということがわかり、十二神将だけは別な場所に保管しているとのことでした。

以前は正月の風物詩としてどこでも見られていましたが、最近ではめっきり少なくなっていますので、あることを思い出しながらしばし見とれていました。そのあることは、数年前孫にせがまれて風揚げをしたときです。私自身が田んぼのあぜで息を切りながら一生懸命に走り、やっこの思いで風が揚がったため、糸巻きごと孫の手に握らせた途端、何を思ったのか孫はその

手をパツと放したため、私は再び逃げまくる風糸を目指して猛ダッシュ。寒さの激しい中での運動でやや酸欠状態のまま、目の前が真っ黒になりながらも追いかけたものの、所詮風に追いつくはずがありません。そうした私の行動をあざ笑うかのように、逃げた風は100%ほど先の電線にぐるぐる巻きついて止まっています。

そんな、にがい思い出を心の奥に秘めながら、中松にある西国阿蘇33ヶ所観音霊場の第28番札所正遍寺を訪ねてみました。正遍寺は、郡内屈指といわれる大きな楼門と本堂を誇るお寺の境内の一角にあり、十数年前に建て替えられた堂々とした祠となっています。頑丈な鍵がかけられた正面の分厚い格子戸越しに堂内を見てみると、十一面観音様がやはりいらっしやいました。何度も塗り直しがしてあるうえ、頭上にある頂上仏のい

はやる気持ちを押さえながら、格子戸を開錠してもらって十二神将を見せてもらったときは大感激で、こりゃー正月から縁起がいいと興奮したものです。南阿蘇っていいな。みんな文化財を守ってくれているのがうれしいですね。ところでみなさん、昨年4月号から「点在する文化財を訪ねて」と題して掲載してまいりましたこのコーナーも、今月号をもちましていったん休ませていただきます。ここまでで、みなさんはかなり仏像の知識が深まっておりますので、これからの仏像鑑賞に自信を持ってお出かけください。

南阿蘇にはまだまだたくさん文化財がありますので、みなさんにご紹介できるときはこれまでと違う形で文化財を探ってみようかと思っております。永い間のご愛読ありがとうございました。

〔記事と写真〕

県文化財保護指導委員

笠野 次雄